

## 第 204 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 4 年 6 月 29 日（水） 13：30～14：38

場 所：浜田市役所本庁 4 階講堂 AB

出席者：岡田教育長 宇津委員 花田委員 杉野本委員 岡山委員

事務局 森脇部長 草刈課長（代理：大坂図書館長） 永田担当課長

鳥居室長 田中課長

書記：日ノ原係長 皆田主任主事

新型コロナウイルス感染防止に伴う出席者の調整のため、議題、報告資料のなかった邊担当部長、猪木迫担当部長、松山担当課長、山口課長、木屋担当課長、濱見室長、岩崎分室長、細川分室長、上原分室長、石原分室長は、欠席。

### 議事

#### 1 教育長報告

#### 2 議題

- (1) 第 3 次浜田市子ども読書活動推進計画の策定について（資料 1）
- (2) 浜田市立図書館協議会委員の委嘱について（資料 2）
- (3) 浜田市社会教育委員の委嘱について（資料 3）

#### 3 部長・課長等報告事項

#### 4 その他

- (1) その他

#### 1 教育長報告

岡田教育長

皆様、お疲れ様です。本日、午前中に開催された総合教育会議に参加をしていただき、ICT 等を活用した学力育成の取組と、子どもたちの協働のまちづくりへの参画を見据えた、学校、家庭、地域社会からのアプローチについて、市長と意見交換をしていた。

市長の考えを直接聞くといった機会もなかなかないため、今回の会議については、それぞれ意見をしっかりと伝え合うことができた良い機会になったと思っている。

その中で出た課題については、教育委員会としてもしっかりと整理をして、今後の教育活動に繋げていきたいと考えている。

併せて、5 月の下旬から中学校総合体育大会が始まり、委員方

にはご参加いただいた方もおられると思う。浜田市単独での市総体は今年度で最後である。来年度以降は、三市一郡、江津市、大田市、それから邑南町、川本町、美郷町の三市一郡のブロック大会として開催される。子どもの数も減少しており、競い合う相手も減ってきている状況を考えると、教職員の働き方改革と照らし合わせてもやむを得ない流れになってきていると受け止めている。

6月には浜田市議会定例会議が15日に開催され、明日30日に閉会をする。本日は報告事項の中で関係資料も用意しているが、一般質問では、休日の部活動の地域移行について、浜田市のスポーツ振興の方針について、ウクライナ紛争と平和教育について、歴史文化施設の整備と活用について等が問われた。特に、部活動の地域移行については、スポーツ庁の専門検討委員会の答申が出ているが、まだ、課題に対して、国の具体的な対応方針も示されていないため、市町村の教育委員会や学校も動きづらさがある。ただ教職員の働き方改革にも繋がる制度改革であり、ここで生まれた教職員の余力が子どもたちの学力向上や学校経営の充実に充てられると信じて、教育委員会として取組を進めていきたいと考えている。

それでは、お手元の資料に基づいて報告させていただきたいと思う。

① 5月27日（金）浜田市中学校総合体育大会（水泳）

② 5月28日（土）浜田市中学校総合体育大会（陸上）

5月27日から浜田市中学校総合体育大会が始まった。応援にお越しいただいた委員方、ありがとうございました。

③ 5月30日（月）浜田市小学校陸上競技大会（浜田市陸上競技場）

小雨の中ではあったが、小学校陸上競技大会も開催をしている。

④ 5月30日（月）HAMADA 教育魅力化コンソーシアム役員会（中央図書館）

同じくこの日はHAMADA 教育魅力化コンソーシアムの役員会が開かれ、今年度の事業計画が承認をされた。今年から高校魅力化コーディネーターを1名増員して、2名体制で学校と地域との連携協働機能を強化していきたいと考えている。

⑤ 6月3日（金）市長表敬（中国電力陸上競技部）

中国電力の陸上競技部の皆さんが市長表敬を受けられた。その翌日には、エネルギーランナーズスクールin浜田が4年に1回であるが、開催されている。その前日に表敬が行われた。

⑥ 6月5日（日）浜田市総合防災訓練（市役所講堂）

この日は浜田市の総合防災訓練が行われ、水害土砂災害を想定した訓練に参加している。

⑦ 6月8日（水）市長表敬（ポルセイド浜田・Fリーグ開催報告）

⑧ 6月8日（水）市長表敬（ベルガロッソ浜田・全国社会人サッカー選手権大会出場報告）

6月は中国電力陸上競技部の市長表敬以外にも、ポルセイド浜田とベルガロッソ浜田の市長表敬を受けている。

⑨ 6月14日（火）藤間流藤恵会市長表敬（チャリティ公演）

藤間流藤恵会の市長表敬も受けている。

⑩ 6月24日（金）市長表敬（ソフトテニス・内田理久氏・アジア競技大会代表選出）

アジア大会の日本代表に選出されたということである。大会自体は少し延期され、まだ日程は決まっていないが、世界で戦うアスリートが浜田から誕生したということで、非常に嬉しく思っている。

⑪ 6月14日（火）全国市町村教育委員会連合会功労者表彰伝達（金本妙子氏）

長年、教育委員を務めていただいた金本妙子さんに、全国市町村教育委員会連合会の功労者表彰を伝達してきた。非常にお元気でおられた。

⑫ 6月14日（火）絵画寄贈者面談（勝田艶氏）

浜田市の人物読本ふるさとの50人にも掲載されている教育者の藤田威さんが描かれた絵画を、当時、浜田ろう学校で同僚であった勝田艶さんから寄贈していただいている。世界子ども美術館で保管させていただいている。

⑬ 6月24日（金）高齢者叙勲伝達（元国府小学校長・長岡昭夫氏）

高齢者叙勲の伝達式のため、元国府小学校校長の長岡昭夫さんに叙勲を伝達してきた。私がちょうど小学校5年、6年生の時の担任の先生で、伝達式で非常に盛り上がり、当時の懐かしい写真等も見ながらお話をさせていただいた。

⑭ 6月27日（月）教職員評価システム管理職面接（オンライン）

- ⑮ 6月28日(火)教職員評価システム管理職面接(オンライン)  
オンラインで管理職面接を実施している。  
1か月間の報告は以上である。  
今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

各委員

特になし。

## 2 議題

- (1) 第3次浜田市子ども読書活動推進計画の策定について(資料1)

草刈課長

(代理:大坂館長)

中央図書館長の大坂と申します。本日、草刈課長が所用で欠席のため、私が代理で説明をさせていただきます。よろしく願います。

当時、この計画については令和3年度に完成する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係で会議が全然持てなかったり、日程調整がつかず、今年度にずれてしまった。誠に申し訳ない。

資料1をご覧ください、1年延びてしまいましたが、これまでの経過及び今後の予定として記載をしている。今後、パブリックコメントを募集して、その後、検討委員会、それから教育委員会で承認をいただいとるかたちをとっていきたいと思っている。

子ども読書活動推進計画の中身であるが、教育大綱の中の前半の6年が終わって後半の4年に入るところで、この推進計画もそれを受けているため、大きく変えたということはない。流れは踏襲している。ただ、変更した部分もあるため、そのところを中心に説明させていただきたいと思う。

最初に、目次、中身の構成であるが、今まで長い文章であったため、県の第4次推進計画と目次を併せた形で文章を作っている。

ただ、浜田市教育振興計画にもSDGsについて書いてあるため、その部分で図書館についてはSDGsのゴール4の部分だけであり、1ページ目の初めの中で、SDGsのゴール4について書かせていただいている。それを付け加えた部分である。

それから中身について大きく変えたのが、「家読」についてである。家読については、第1次、第2次は子育て支援課を中心に、「家読」を進めていくようなかたちで書いてあったが、「家読」自体が小さい子どもだけじゃなく、小学生、中学生、高校生になっても必要である。そういったことを踏まえて、中央図書館が軸となり、まちづくり社会教育課、子育て支援課、学校教育課、そして、図

書館を含めた教育総務課の全体で取り組んでいく。それを連携させるために、浜田市立図書館が軸になっていくというかたちに変えさせてもらっている。そういったことも含めて、連携を重視していきたいと考えている。

細かいところであるが、中身の数値目標について変更しているところがあるため、説明させていただく。

あと語句説明については、語句が出てくるページの下に注釈として付けさせていただいている。

15 ページをご覧ください、前回の数値目標と進捗状況を載せている。市民一人当たりの図書貸出数であるが、令和 3 年度の数値目標として 5.5 冊と記載しているが、実際は 7.0 冊を目標にしている。7.0 に修正をしていただければと思う。申し訳ない。

もう 1 点、平均の読書時間 30 分以上の児童・生徒割合のところ、令和 2 年度の実績が小学校は 28.6%、中学校 28.5%（令和元年度実績※）と記載がある。これは令和 2 年度については、全国学力調査がなかった関係で、ここの数字が出てこなかった。令和 2 年度の県の学力調査を基にすると、小学校 5 年生と中学校 3 年生というかたちになり、目標の軸がずれてしまうため、前年度の令和元年度の実績を載せている。

それから、28 ページをご覧ください、新しい数値目標の中の一つ番最初のところに、子育て世代包括支援センターの事業で行う全ての読み聞かせの回数と参加者数ということで、令和 2 年度の実績を書かずに、令和 8 年度 50 回延べ 840 人と書いている。これについて第 2 次の計画では、読み聞かせボランティアの方にしてもらった回数だけをずっと挙げていた。実際には、それ以外にも色々な場所や場面でかなりしておられて、やはり読み聞かせをどれだけしているかという総数的なものが大切だろうということで、新たにここで目標を立てて変えている。基準が違うため、令和 2 年度の実績を書いていない。

それから、市民一人当たりの図書貸出数を 5.5 冊にしている。令和 3 年度目標で 7 冊から随分減ったのではないかというご意見もあるかもしれないが、実際に一人当たりを 1 冊増やそうと思うと、1 年間で 5 万冊の貸出数を増やさないといけない状況にある。実際に今は 5 冊程度のところで、7 冊まで増やそうと思うと、2 冊分増やすためには、10 万冊の貸出数を 1 年間で増やさないといけないということで、途方もない数である。なかなかそこまで 4 年

間でもっていくということは難しいと思ったため、実現可能なところの 5.5 冊にしている。これが達成できたら、次の期間はもう少し上げていこうと思っている。説明については以上である。

岡田教育長

資料については事前にお配りしていたと思うが、前回の計画の変更点を中心に説明を受けたが、子ども読書活動推進計画について、委員方からご意見等あればお願いしたいと思う。いかがか。

杉野本委員

23 ページの読書習慣づくりの推進のところで、現在小学校 1、2 年生に読書ノートを配布しているということで、それはまだ続いていると思うが、この辺りの取組の成果はいかがか。

大坂館長

実際には 4 月当初に小学校と中学校の全てに配布していた。学年が上に上がるほど、それを書くことで読書に対して取っつきにくい雰囲気も出てきた。学校の方からも要望はある程度出ており、それにより、読書ノートを辞めようかという話も一時あったが、低学年にとっては非常に大切であり、やらせてほしい、確保してほしいということで、低学年については続けている。読書ノートコンクールでも、非常に良い成績を県内でも受賞しており、充実はしていると思う。

杉野本委員

現在、読書ノートコンクールへの県全体の参加も減ってきているという話も聞いている。それに向けての教職員の負担もあるのではないかという気がしている。

それから、読書ノートを書くことによって本好きを増やすということ、文章を書くということの両方で狙っているということであるが、両方を目指すことが本来的なものなのかということも疑問に思える。これだけの配布となると、費用対効果の部分もある。新入生に本が好きな子がいるなら、例えば読書ノートの前に本に飛びつくように、新 1 年生の教室にはそれだけの人数配分を考えた予算配分をして、新書を揃えて新入生を迎えろとか、読書ノートを書きたい子が買おうとか。読書ノートを負担に感じる教職員や子どももいるのではないかという気もするが、この辺りはどうなのかなという思いを持っている。

鳥居室長

杉野本委員がおっしゃったところは重々感じているところではある。ただ、足跡が残っていくというところについては、貴重なところであると思う。低学年のうちにそういったことが残ってくる嬉しさとか、それをきっかけにどんどん本を読んでいくということもあるのかなと思う。

確かにコンクールが負担になるということもある。最近は学校

の傾向としては先生方が取捨選択するような傾向で進んでいるため、その辺りは学校に任せて、とりあえず入門期の足がかりというところでは、やっていけばどうかなと思っている。それから、1人当たりの貸出冊数については、目標値を達成しているため、それなりの効果が出ていると思う。

杉野本委員  
岡田教育長  
宇津委員

ありがとうございました。

その他はよろしいか。

8ページの(2)小学校、中学校における読書活動の推進の中で、①の2番目、学校図書館図書標準の基準があるが、標準を達成しているのが小学校16校のうちの12校で中学校は9校のうちの4校である。これが現実ですね。

大坂館長  
宇津委員

そうである。

これは、一応、標準があるわけで、そこまで到達するというのが当面の課題であると思う。それに対する具体的な策というか、予算が伴うものだと思うが、その辺りの記述があるといい気がする。

岡田教育長  
大坂館長

今の質問に対していかがか。

確かに標準冊数になかなか到達しないという部分もあるが、今は徐々に近づいてきている傾向にある。以前は達成すると、予算が減らされるのではないかという声があったが、それは絶対ないと言いつけていた。それに伴って、蔵書管理をするようになってきたところもある。もう1つが、平成27年度からは、バーコードを使った情報BOXという管理システムを使っているので、司書の方々の負担もある程度軽減されてきており、徐々に新しい本を入れていく、必要な本を入れる傾向があると思う。そのため、徐々に改善してきていると感じている。

森脇部長

学校図書館の図書の購入予算についてであるが、削減するようなことはなく、できるだけ確保するというところでやっている。各学校において、司書の方がしっかりしている学校は、新しい本にどんどん入れ替えていくということをきちっとやっていただいている。冊数だけを見て多ければ多いほど良いというものではない状況がある。やはり新しい本の方が、興味関心を持っていただけるといえると思う。そういう状況である。

岡田教育長

廃棄等もしながらやっているため、なかなかトータルの冊数が標準にまだまだ達していないかもしれないが、予算については減らしているということはない。

岡山委員

その他はよろしいか。

第3次浜田市子ども読書活動推進計画が、本当に子どもに特化したものだと重々承知しているが、何となくイメージが学校現場とか保育園とか、現場で子どもたちと関わっているところに限定されているようなイメージがどうしてもある。

協働のまちづくりも立ち上がり、言われるようになった中では、もっと大きなまちぐるみで、子どもたちの読書の環境をどうにかしていこうよということにならないかなと思っている。

保護者の方への啓発についても記載されているが、例えば、読書に対するイメージを市全体で盛り上げていくのに、講演会を企画してみるとか、全体で今、盛り上げている最中ですよというイメージが持てるようなことがあるといいと思う。どうしても関わっている人たちだけが頑張っているように見えてしまうため、それだと効果がそこに限定的な気がする。色々なところでまちづくりセンターが関わっているとあるが、今、読書や図書に関わっている人だけじゃない層にもっと関わっていただくということになると、講演会等を開いてみたりということをやっていくのもいいのではないかと思う。

大坂館長

ありがとうございます。現在、実際には色々な部署でそういった働きかけをしていただいているが、例えば、ブックスタート事業にも司書の方々に関わってもらっている。少しずつではあるが広げているところである。

それから、講演会についてであるが、実は来年度、中央図書館と三隅図書館が10周年を迎える。それに伴って、講演会をお願いしようということで、予算化をお願いしているところである。いくつも講演会はできないが、少しずつではあるが広めていきたいと考えている。

岡山委員

非常に良いタイミングだと思う。来年の講演会を起爆剤にして、やっていただければと思う。

岡田教育長

私から1点確認であるが、一番最初の表紙の部分にあるように、今後の予定が示されているが、パブリックコメントをこれから1か月にわたって募集をした後で、例えば修正が必要な部分が出てくれば、そこで直されるのか。

大坂館長

そうである。

岡田教育長

本日、委員方からいただいた意見の中で対応できるものについて、それと併せて案を見直すということも考えるということによ

大坂館長  
岡田教育長

ろしいか。

はい。

本日、この場で即答ということがもしかしたらできない部分もあるかもしれないが、必要なところについては、この計画案を修正するため、気付いた点についてはどんどん仰っていただければと思う。

宇津委員

その他はいかがか。

14 ページの (4) ボランティアの育成、支援の中で、「それぞれのボランティアの集まりで、イベント後の反省会等を計画されています。」とあるが、あたかも好き勝手にやっている、そんなことはないと思うが、やっておられますよというレベルである。そこから、反省会等が出てくる感想なり意見なり、建設的な物の考え方等を聴取する姿勢がないと、これでは育っていかないのではないかと思う。もっとボランティアの人たちを大切にするようなスタンスをとらないといけないのではないかと思う。その辺りをお聞きしたい。

大坂館長

実際には、ボランティア団体で友の会とかの推進の会があるが、私もその会議にほとんど参加していて、その場で話を聞いているかたちではある。ただ、図書館がメインになって、じゃあやりますので集まってくださいというかたちではやっていない。

岡田教育長  
大坂館長  
岡田教育長

ここについては、表記を直すか。

はい。もう少しわかりやすい表記に修正する。

その他はいかがか。

私からもう 1 点確認であるが、20 ページの「家読」の推進のところ、先ほど説明があったように、ここに力を入れるということであるが、「家読」が進んでいるか、進んでいないかの判断、検証するための指標は、28 ページで言うと平日の読書時間 30 分以上の児童・生徒の割合になるのか。

この時間というのは学校ではなく、家で読書をしている時間として受け止めていいのか。少しその辺の数値目標の意味合い等も教えていただければと思う。

大坂館長

「家読」というのは、数値で評価しにくい部分がある。そのため、「家読」を意識した評価は申し訳ないが入っていない。

岡田教育長

仮に、直接は推し量る数値がなくても、この数値から推定できるものが何かあればいいと思うが、そういう意味では、先ほど言った 30 分以上読書をするという指標とは関連があるのか。

大坂館長 はい。関連してくるものはこの部分と 1 人当たりの貸出冊数の部分だと思っている。

岡田教育長 一応、力を入れていく重要な部分であるため、何かしらの数値を追っていく必要があると思う。

大坂館長 実際に行ったことでいけば、一番最初の子育て世代包括支援センターで行われる読み聞かせの延べ参加者数かなと思う。

岡田教育長 検証していく時に、検証しやすいような指標も見つけていただければと思う。

大坂館長 承知した。

岡田教育長 その他はよろしいか。

岡山委員 どうしても読書が、個人の趣味嗜好みたいところに捉えられてしまうと、やっぱり推進がしにくいところがすごくあると思う。

1 ページ目に記載されているが、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」と書いてあるということは、やっぱり生きる力に繋がってきていることだと思う。本当にこれが大切だと思うのならば、浜田市全域で本当に力を入れてやっていけばできないことはないと思う。どれに関しても計画的なことは書いてあるが、そこまであまり強く押し出してはならないようなイメージをどうしても受けるため、好きな人は読んでくださいみたいな感じを受ける。もう一步、何か踏み込んだかたちになればいいかなと思うため、団体の方々の研修の時に、本が好きだから読むということではないですよと意思統一というか、やっぱりこれは全力を尽くして進めていかなければならない計画であると一丸となり一致団結して進んでいくことが必要であると思う。計画として書かれていることを見れば、なるほどこんなことをするんだなというのは分かるが、本当にどこまでやるのかという部分があんまり見えてこないと思った。

先ほど教育長が言われたように、本当に目標数値をもっと掲げて、どんどんそれを推進していく方向に持って行って、そのくらいしないと前に進んでいるかどうなのかが分からない。本当に書いただけの計画になったらすごくもったいないと思う。是非、見えるかたちで、効果を追いかけ続けてほしいと思う。

岡田教育長 ありがとうございます。今のご意見は、この計画は割と切り口切り口ごとに、具体的なものは入れてあるが、トータルとして「家読」の大切さをどう伝えていくかという部分の見え方が、やはり、

各委員 岡田教育長	<p>少し弱いのではないかということであった。</p> <p>初めのメインのところになるのか、どこかで「家読」をしっかりと推進していくというような整備をしたらどうかというふうに私も受けとめたので、改めて検討してもらいたいと思う。</p> <p>他にはよろしいか。</p> <p>はい。</p> <p>それでは、次の議題に入りたいと思う。</p>
--------------	--

(2) 浜田市立図書館協議会委員の委嘱について (資料 2)

草刈課長 (代理：大坂館長)	<p>資料 2 をご覧いただき、図書館協議会については条例で定められており、委員の委嘱については教育委員会が任命するというところで、委員会に承認をお願いするものである。</p> <p>各代表のところには推薦依頼を出して、その結果が返ってきたものを載せている。</p> <p>前回の委員と代わられた方が、浜田市 PTA 連合会から大谷さん、家庭教育の向上に資する活動を行う者から鎌田さん、学校教育関係者で幼稚園から玉木さん、学校教育関係者で羽柴さん、学識経験者で社会福祉協議会から古森さん、以上 5 名が前回と変わっている。ただ、玉木さんについては、以前は小中学校の学校関係者の代表として参加していただいている。</p>
岡田教育長	<p>図書館協議会委員の委嘱については、教育委員会の承認ということであるが、ご質問等あるか。</p>
各委員	<p>特になし。</p>
岡田教育長	<p>無いようであれば、ご承認いただけるということによろしいか。</p>
各委員	<p>全会一致で承認</p>
岡田教育長	<p>ありがとうございました。</p>
大坂館長	<p>ちなみに、先ほどの第 3 次浜田市子ども読書活動推進計画の進捗状況の管理についてであるが、検討委員会ではできないため、こちらの協議会の方をお願いして進捗状況の管理をするかたちにしたい。ご承知いただければと思う。よろしく願います。</p>

(3) 浜田市社会教育委員の委嘱について (資料 3)

永田担当課長	<p>資料 3 をご覧いただき、浜田市社会教育委員の選任についてである。こちらも社会教育法第 15 条の規定により、社会教育委員の委嘱について承認を求めるものである。</p> <p>名簿については裏面をご覧いただき、全部で 13 名の方をお願い</p>
--------	--

	<p>しているが、現在、11番目のところが選任中となっており、旭地域から選出していただく委員については、ただいま選考中である。選任が決まれば改めて委員方には承認をお願いしたいと思う。</p> <p>本日は、13名のうち12名の承認をいただきたいと思う。</p> <p>任期については、令和4年4月1日から令和6年3月31日までの2年間である。昨年度までの委員の方で、継続の方が6名、新しく委員の方が6名ということで12名のうち、半々というかたちである。説明については以上である。</p>
岡田教育長	<p>ただいま、社会教育委員の委嘱について、13名のうち12名の方が推薦をいただいて、候補者が決まっているということである。</p> <p>委員方からご質問等あればお願いします。</p>
各委員	<p>特になし。</p>
岡田教育長	<p>それでは、こちらの名簿にあるとおり、社会教育委員の委嘱について、承認いただけるということによろしいか。</p>
各委員	<p>全会一致で承認</p>
岡田教育長	<p>ありがとうございました。</p>
永田担当課長	<p>1点ほど申し訳ない。後ほど行事等予定表にも出てくるが、今、ご承認いただいた社会教育委員と7月1日に第1回目の社会教育委員の会を開催して、その中で会長、副会長を選任していくということになる。よろしくお願いします。</p>
岡田教育長	<p>その会議までに旭地域からの選出者は決まっていけないのでは。</p>
永田担当課長	<p>今選考中である。</p>
岡田教育長	<p>承知した。</p>

### 3 部長・課長等報告事項

森脇部長	<p>令和4年度 一般会計補正予算（第3号）説明資料（資料4-1）資料4-1をご覧ください、令和4年度一般会計補正予算（第3号）説明資料である。3ページを開いていただき、まず、教育部ではないが、8.土木費のところの13番、通学路等緊急安全対策事業ということで、国からの補助が付いて24,674千円の増額補正となっている。</p> <p>次に10.教育費の中の14番、新型コロナウイルス感染症対策事業（幼稚園費、国補正分）であるが、これは幼稚園における新型コロナウイルスの消毒液等の消耗品費ということで、1,200千円が計上されている。</p>
------	---

令和4年度 一般会計補正予算(第4号)説明資料(資料4-2)

続いて資料4-2の令和4年度一般会計補正予算(第4号)説明資料をご覧いただき、これは議会中に追加提案をされたものである。2ページ目の10.教育費の2番、新規で緊急校務支援員配置事業である。これは常勤教員が未配置となり、欠員等が生じている小中学校に対して、教職員の校務負担を軽減するために、緊急校務支援員を配置するという事で、10,523千円の増額補正がされている。

今、欠員等が生じている学校については非常勤講師が配置されているが、非常勤講師というのは授業をするだけであって、校務をする時間が十分でないということでその部分を支援員で補い、負担を軽減するための事業である。

個人一般質問 通告一覧(令和4年6月浜田市議会定例会議)  
(資料5-1)

令和4年6月定例会議(答弁準備原稿 個人一般質問用)(資料5-2)

続いて資料5-1をご覧いただき、個人一般質問通告一覧である。今回、個人一般質問の通告は21名から83項目あり、そのうち教育委員会関係は10名から28項目の質問があった。

質問の概要としては、佐々木議員からコロナ禍における物価高騰時における学校給食費等の負担軽減について、村武議員から学校給食における有機野菜、有機米等の使用について、川神裕司議員からスポーツ都市宣言について、それから学校教育におけるフェーズフリーの導入、これは災害時の対応について質問があった。

また、小川議員からは児童・生徒のヤングケアラー認知度の向上、教職員研修等についての質問があった。また、ウクライナ紛争に加えて、平和教育の中立性についてという質問もあった。

続いて、大谷議員からは災害時に命を守る学校の取組の内容について、芦谷議員からは歴史資料の整理と資料館についての質問、また、学校給食の公会計化についての質問もあった。

続いて、西田議員からの質問は、はまだデジタルミュージアムの開設について、三浦議員からは中学校の部活動の地域移行

についての質問があった。

続いて、川上議員からは歴史資料館の整理、保存について、岡本議員からは中学校の部活動の地域移行について等の質問があった。

なお、通告にはないが、再質問で村木議員から学校における防災教育の推進について、永見議員からは浜田市通学路安全推進会議における合同点検についての質問があった。

答弁については、資料 5-2 をご覧いただければと思う。よろしく願います。

岡田教育長

ただいま、教育部長から報告があった事項について、ご質問等あれば願います。

杉野本委員

資料 4-2 の 2 ページ目の緊急校務支援員配置事業について、県から 10/10 補助がもらえるということだが、主に想定している緊急校務というのは、どういったものを考えておられるか。

森脇部長

支援員であるため、具体的な評価等はお手伝いできないが、プリントの印刷であったり、場合によっては生徒の見回りであったり、そういう部分が現実的などころじゃないかと思う。場合によっては、部活動というところまでは無理かもしれないが、そうした学校での校務の中で支援員ができる部分ということになる。

杉野本委員

県からの補助が 10/10 ということで、縛りというか、こういう部分ではできませんよとか、そういった何か細かい部分はあるか。

森脇部長

細かいところを言えばあるかもしれないが、一応校務ということであるため、ある程度裁量の幅があるかと思う。

杉野本委員

その辺りの活用といたら失礼かもしれないが、活かし方というのは学校に委ねる部分があるということか。

森脇部長

そうである。ただ、これを受けてしまうと講師の方の補充がなくなるのではという心配もあり、積極的に使おうというような感じではないのが学校の様子である。

杉野本委員

まだ決まらないが、できるだけ早く講師を配置してもらう方向でということか。

森脇部長

そうである。

杉野本委員

承知した。

岡田教育長

この件については、既に教員免許をお持ちの方がほとんどおられない。本当は常勤で入っていただきたいかったが、常勤は難

しいということがあって、非常勤で教員免許を持っている方を入れている。ただ、非常勤を一旦入れるとそこは常勤に代われないということがあるため、そこを補う意味でも教員免許がなくてもできる校務のお手伝いをしていただく。それが各学校の先生方の負担軽減に繋がるということで、そういう人を想定して予算化をしている。

それから、基本、今は非常勤を入れているが、これから産休や育休を取られる先生が何人かおられることがわかっていて、その先生の代替の方が見つかりそうかという、現状のスタート時点でも配置ができていない状況なのでなかなか厳しいものがあるだろうということで、そうした方に対しての支援、学校支援の意味も含めて、こうした緊急の校務支援員配置事業を県が考えらえた。少しでも、学校の負担軽減に繋がるのであればということで予算化をさせてもらった。

ただ、本来、教職員の配置については県が決められることであるため、市の予算を通さずに県に直接やってほしかったというところが正直なところではある。この制度については、県の教育長、皆さん方とも意見交換をするが、こういうやり方はどうなのかなということがあった。しかし背に腹は変えられないので、浜田市も対応したというのが正直なところである。

杉野本委員

配置がない部分での補充というかたちであるが、こういう活用の仕方したら、例えば教職員の働き方改革に非常に貢献できたとか、そういう実績を積極的に県に伝えて、そういう常勤教員の未配置でなくても、こういう制度があれば学校が喜ぶという実績が伝えられて、幅が広がっていくといいなという気がしている。まだ実績がない中では言えないが、要はここが活かせればいいかなと思う。

岡田教育長

学校にも、こんな活用の仕方があるということは具体的に示していくことが必要だと思っているので、しっかり取り組みたいと思う。

その他はいかがか。

各委員

特になし。

日ノ原係長

行事等予定表（資料6）

資料6をご覧いただき、委員方に出席をお願いしているものについては、丸印を付けている。7月5日からの6日間、教育

	<p>委員会の学校訪問があるため、よろしく願います。</p> <p>それから、7月15日、先般、ご案内をさせていただいている島根県市町村教育委員会連合会総会、研修会がWEB開催されるため、教育委員室にお集まりいただければと思う。</p> <p>それから、7月23日、24日に浜田市で開催される島根県中学校総合体育大会の体操競技、柔道であるが、こちらのご案内については、本日、封筒に入れさせていただいているため、またご確認いただければと思う。</p> <p>最後に、7月27日が第205回教育委員会定例会である。ご出席のほど、よろしく願います。以上である。</p>
岡田教育長	7月23日、24日の島根県中学校総合体育大会であるが、応援に行くことはできるか。
日ノ原係長 岡田教育長	はい。 承知した。
各委員	行事等予定表についてはよろしいか。 特になし。
鳥居室長	第3回(6月)市校長会資料(資料7)
	<p>資料7をご覧いただき、6月の校長会で示したものである。本日、午前中の会のところで学習集団づくりの大切さについて、貴重なご意見をいただいていた。それに関連する資料を校長会で提供している。</p> <p>國學院大學の杉田教授が、初等教育資料に寄稿されていたものを、資料Aとして全文を打ち直したものを校長先生方に提供している。併せて、校内研修で使えるように、学力向上推進室の「子どもの声でつくる授業」のフォルダに入れて、校内で研修してくださいと話をしている。なぜこれを出したかということ、そろそろ子どもたちが本格的に動き始める。それはいい方向であり、悪い方向でもどちらもあるということ、授業づくりが本当に本格的になってくる時期であるということ、授業改善と学級集団づくりとはセットであり、要因であると改めて出させていただいている。</p> <p>初等教育資料は小学校の先生方が対象ということになっているため、上から4、5行目ぐらいのところ以太字で下線を付けているが、学級経営は校長の課題だと認識すべきである。つまり、リーダーシップを発揮し、配慮すべきことを全職員で共</p>

有し、学校として統一する必要がある。校長先生方にお伝えしたのは、職員会議で生徒指導の話は出るが、本当に心に落ちるような生徒指導の話になっているだろうか、共通理解することが紙面だけで終わっていないかということも確認をしている。

四角囲いにしているのが、資料Aの中で、ポイントかなと思ったことを私が抜き出したものである。いくつか読み上げていきたいと思う。2番目の丸であるが、杉田教授が元文科省の調査官であるが、彼の子どもの頃の経験だそうである。宿題を忘れたから表示をつけさせられて廊下を歩かされたとか、昔はあったような気がするが。今の時代はそんなことはないと思うが、かたちを変えて同じようなことが行われてないかという警鐘である。全員の前で、人格を否定するような叱責があったり、そんなことが行われてないかという投げかけである。

3番目の丸であるが、担任あるいは生徒指導の主任の先生方は、子どもたちの課題としてこういうふうに解決しますと言っているが、子どもたちはどうですかと問いかけ、子どもたちが本当にこの問題を解決しようと思っているか。その前に問題だと思っているのか。そこをないがしろにしては問題は解決しませんよということの指摘である。

4番目の丸であるが、全教職員でこういうことを今一度、確認してみてくださいという内容である。1番、2番、3番とあるが、ずっと読めば読める。だが、一つひとつについて、きちっと研修してみると、おろそかになってはいないかということが見えてくる内容である。もう1度、校内でこの辺りの進行状況を確認してくださいとお話している。

それから、生徒指導について、色々な取組をするのは、時間が色々かかってくる。だが、よく考えると教育課程上、位置づけられたものがありはしないか。それは特別活動で、そこをしっかりとやっていくというような言い方がしてある。そこをしっかりとやっていくと一番最後の丸のところで、「人間関係形成」とか「社会参画」、「自己実現」の資質・能力が特別活動の中で育っていく。それを身につけた子どもたちは、支持的風土を自ら作っていくことができる。それが学級集団づくりにも繋がっていくということを、紹介させていただいている。

併せて2番目の学級活動(1)の指導についてであるが、先ほどの特別活動の中の1番に子どもたちの自治的活動に関わっ

てくるのが、いわゆる学級会で週に1時間、必ず出てくる。若い先生方はこの辺りが非常に苦手で、学級会そのものを開かない人たち、先生の説教で終わっているというようなことがあるため、文部科学省が映像資料を今回作っている。これも学校に紹介しているが、その中から抜粋して私が今まで学校訪問で使ってきたものを少し付け加えたりして、若い先生方にと言ったら言い方がおかしいが、経験の少ない方々の参考になるようにということで、学級会の流れはこういうふうになるということを1ページに記載している。

続いて、2ページ目の(3)のところであるが、いわゆる学級会では色々な意見が出て決定するために、折り合いをつけながら話し合いをしていくわけで、いわゆる多数決をしない。そういうことでできるだけ進めていくが、まとめる段階で合意形成するやり方が色々ある。これを踏まえて先生方は懐いっぱい引き出しを持ってほしいと紹介している。是非、この辺りを見ながら学級会をしっかりとやってくださいとお伝えしている。

7月の校長会では、生徒指導の担当を児童生徒支援係の指導主事の方から、夏休みの研修に使える生徒指導上のパワーポイントを使った説明をさせていただき、夏休みに生徒指導の研修をしっかりと進める予定にしている。以上である。

以上の説明について、ご質問等あれば願います。  
特になし。

岡田教育長  
各委員

田中課長

浜田郷土資料館見学会の開催について(資料8)

それでは資料8をご覧ください。老朽化の著しい郷土資料館について、手狭な展示スペースや収蔵スペース、建物の現状を市民の皆さんに知っていただくため、施設見学会の開催を予定している。

現在、開催している常設展や企画展、展示自体を見てもらうとともに、そうした施設の現状を理解していただくということで、見学会をまちづくりセンターごとに計画している。各まちづくりセンター発着で、市のバスで郷土資料館に送迎し、館内を見学していただいて、まちづくりセンターに戻るというかたちで考えている。見学会では、教育委員会の職員が施設の状況や、これまでの経緯等について説明をさせていただく。その時の資料は、その後に付けている資料を予定している。

岡田教育長  
杉野本委員  
田中課長

岡田教育長  
各委員

見学会の最後には、アンケートも考えており、アンケート等のご意見を基に、今後の方向性についても考えていきたいと思っている。

資料の下段に日程を記載しているが、まちづくりセンターごとの見学会を開催した後に、フリー参加の見学会とある。まちづくりセンターの日程と合わなかったという方々のために、土日等を利用して8月の終わりに現地集合でのまちづくりセンターごとではない、地域を絞らないフリーの見学会を開催する。

その後、議会に報告をしながら、9月以降のところで地域協議会との意見交換会を考えている。

別添の資料については、また後ほどご覧いただければと思う。報告については以上である。

ただいまの報告について、ご質問等あれば願います。

郷土資料館の駐車場はあるか。

はい。台数はわずかではあるが、建物の裏側に数台は停められるようになっている。8月の終わりのフリー参加での見学会については、郷土資料館の駐車場も利用できるが、近隣の中央図書館の駐車場もご利用いただくことを考えている。

その他はよろしいか。

特になし。

#### 4 その他

##### (1) その他

岡田教育長  
日ノ原係長  
岡田教育長

各委員

事務局からその他何かあるか。

特になし。

その他のところで、委員方からご報告やご質問があれば願います。

特になし。

#### 次回定例会日程

定例会 7月27日(水) 13時30分から 浜田まちづくりセンター1階  
第1、2研修室

#### 次々回定例会日程

定例会 8月22日(月) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂 AB

14:38 終了